



題字：山崎 カさん

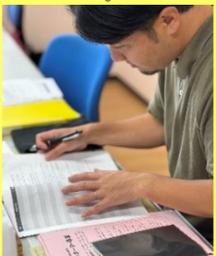
Vol.4 夢をいだけ アルプス福祉会だより
そだちをささえる



社会福祉法人
アルプス福祉会

子どもと家庭と社会をつなぐ、こんなこともやっています。

「大薦さん自身の子育てにも役立っているんじゃないですか？」
いやあ・・・やっぱり仕事と家庭とは違います(笑)。自分の子どもには言いたいことをつい言っちゃうときもありますよ。こうすればいいって分かっているも出来ない時だってありますよね。そんな自分の経験も、保護者の方には隠さず伝えていきます。



つなぐ先を探っていきます

「この仕事をやっていて良かったことありますか？」
お子さんが育っていくのを、保護者の方や関係機関みんなで守れることです。サービスを受けることで、出来ることが増えたり変化があったりする様子を一緒に喜べることはうれしです。また、悩み困っている事を共有して一緒に考え、保護者の方に寄り添うことで何かお役に立てていたら嬉しいですね。
「地域の皆さんになにか伝えたいことはありますか？」
私たちの仕事はちょっと分かりにくいかもしれませんが、お子さんの力になれるのは、学校や保育園、病院以外にもあることです。早いうちから適切な支援を受けることは、その子にとっての成長を助けることにもつながります。何か気になることがあれば、一人で抱え込まずに専門家、ご近所さん、誰かに相談してください。また、賑やかな空間が好きな人もいれば、苦手な人もいます。目には見えない様々な悩みを抱えた人が、近くにいないということを知ってほしいなと思います。1人ひとりが生き生きと生活できる地域を、私たちの仕事を通してつくっていきたくです。



お子さんの様子をしっかりと聞き取ります

「運営してみよう」とありますが、特に中学生以上のお子さんが安心して居場所が少なく、居場所があってもその環境に合わないお子さんもいます。社会資源と人材はまだ足りないの、十分な支援が来ているとは言えませんが、少しずつでも、お子さんの力になれるようにと思っています。



広々とした室内で活動しています

療育コーディネーター



療育コーディネーターの大薦さん

「療育コーディネーターの役割は？」
障がいのあるお子さんや、発達特性のあるお子さんの相談を受けて保護者や関係者と一緒に支援方法を考え、関係機関につなげる仕事です。保護者の方から相談や、保育園や小学校などの関係機関の方からの相談を受けることも多いです。この事業は長野県から委託されているので、松本圏域南部（松本市、塩尻市、朝日村、山形村）の関係機関と一緒に地域の課題を掘り起こして、県へ課題を報告、提言したりすることもあります。
「すごい！子どもについての悩みを解決する仕事ですね！」
いやいや、全て解決は出来ません。でも一緒に考える時には、その子が今できることに着目しながら、その子に合わせた速度で専門的な支援が受けられる場所の情報を紹介したり、参考になるような講演会を企画したりしています。解決するというよりも『つなぎ役』かな。

「この仕事をやっていて良かったことって？」

相談を受けたお子さんが、その子に合った支援や専門的なアプローチで少しずつ変わっていく。その傍で応援できるのは、やっていてよかったと思える瞬間ですね。でもうまくいかない時もある。責任も感じます。その時は、専門家の意見も聞きながら、一緒に別のアプローチの仕方考えます。『つなぎ役』をやっていたら、いつのまにか専門家の知り合いがめっちゃくちゃ増えました！(笑)

相談支援専門員(児童)



相談支援専門員の皆さんと座談会

「仕事の内容を教えてください」
障がいをお持ちのお子さんが地域の福祉サービスを利用できるように、市町村に提出する計画書を作成しています。また、より良いサービスが受けられるように、医師、保育園や学校の先生と情報共有をするための会議を開催したり、進捗状況の定期的な確認(モニタリング)をしています。
「お子さんの計画づくりで気を付けていることありますか？」
サービス利用を希望するのは保護者の方なので、お子さんの普段の様子等、保護者の方の話をしっかりと伺うようにしています。

「この仕事をやっていて、良かったことありますか？」

お子さんが育っていくのを、保護者の方や関係機関みんなで守れることです。サービスを受けることで、出来ることが増えたり変化があったりする様子を一緒に喜べることはうれしです。また、悩み困っている事を共有して一緒に考え、保護者の方に寄り添うことで何かお役に立てていたら嬉しいですね。
「地域の皆さんになにか伝えたいことはありますか？」
私たちの仕事はちょっと分かりにくいかもしれませんが、お子さんの力になれるのは、学校や保育園、病院以外にもあることです。早いうちから適切な支援を受けることは、その子にとっての成長を助けることにもつながります。何か気になることがあれば、一人で抱え込まずに専門家、ご近所さん、誰かに相談してください。また、賑やかな空間が好きな人もいれば、苦手な人もいます。目には見えない様々な悩みを抱えた人が、近くにいないということを知ってほしいなと思います。1人ひとりが生き生きと生活できる地域を、私たちの仕事を通してつくっていきたくです。

サポートコーディネーター



職員の山本さん

「サポートコーディネーターって？」
様々な事情で家で過ごしているお子さんや保護者の相談を受けて、専門機関などにつなげたり、学校を訪問して、先生方と情報共有したり、お子さんの居場所づくりをしています。

「普段の業務はどんなことをされていますか？」

南松本にあるインクルーシブセンターにアルプス福祉会から出向しています。私の担当は主に中学生以上のお子さんで、保護者の方からの電話相談や、自宅から出られないお子さんのお家へ伺って面談したり、進学時に支援が途切れないように学校訪問をしたりと様々です。臨床心理士と公認心理師の資格を持っています。他の保健師やインクルーシブ教育推進員と一緒に、その子にあった支援やアプローチを考え提案しています。
「今日伺っているのは松原について教えてください」
家以外でもお子さんがほっとできるような居場所として、松本市教育委員会の方と一緒に運営しています。週1回4〜5名の参加者がいますが、最近ではみんな卓球にはまっていて、汗びっしょりになります(笑)。ちょっとした部活みたいですね。
「山本さんが、みんなのお姉さんのように見えます！」
私も卓球していて失敗することもあります(笑)。でも、失敗してもいいんだ、完璧じゃなくてもいいんだ、って感じてもらえたら。最初はみんな緊張して来ていましたが、だんだんと打ち解けて話してくれるようになりました。ここに通っていたお子さんが、自分の力で次の選択をしていく。そんなお子さんたちの様子を、そばで見守っています。

「運営してみよう」とありますが、

特に中学生以上のお子さんが安心して居場所が少なく、居場所があってもその環境に合わないお子さんもいます。社会資源と人材はまだ足りないの、十分な支援が来ているとは言えませんが、少しずつでも、お子さんの力になれるようにと思っています。

放課後等デイサービスえだまめ

えだまめの日(放課後)の活動に密着!!

14:00~
職員ミーティング後、
養護学校へ送迎に
向かいます。



14:30~
えだまめ到着後、医療的ケアや
身支度を整えたら、おやつや
水分をとってちょっとひと息。



15:15~
ひとりひとりの名前と、歌を
歌いながらはじまりの会をし
たら、全体活動の時間です。
この日はアート制作でした。



16:00~
個別活動&リラックスタイム。
みんなおもしろいおもしろい
過ごします。



16:30~
保護者のお迎えや送迎で
各自家に帰ります。



「放課後等デイサービス」とは、障がいのある就学児童(6〜18歳)が、放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスです。えだまめは重心型といって、身体的・知的に重い障がいがあるお子さんが通えるという特徴があります。医療的ケアを担当する看護師が常駐する他、理学療法士や保育士、児童指導員の専門職が支援を行っています。地域の中で医療的ケアが必要なお子さんも安心して過ごしていただける事業所として、2023年度に開設しました。一日の利用定員は5名で、15名の方が登録されています。

ついでにどんなメニュー？

えだまめの職員さんたちとインタビュー!!



職員の長塚さん

「お二人は今までも法人内の他事業所に所属されていましたね。」
成人された方が利用する事業所で働いていました。ご本人の意思を尊重すること、対話を重ねて支援することは、どの事業所でも同じだと感じています。

「えだまめはどうですか？」

児童ならではの成長を支える視点が加わったと思います。そのためには学校やご家庭など、多職種の連携がかかせません。お一人お一人にとってどんな過ごし方活動ができたらいいか、日々みんなで考えています。

「今後のとりにくみとして」

重症心身障害児や医療的ケアが必要なお子さんが通える放デイがまだまだ少ないです。えだまめが子ども達やご家族にとって、地域の中の安心する心地よい場所のひとつでありたいと思っています。



職員の青柳さん



サポーターだより \ いつもありがとうサポーターさん! /

入山綾子さん



小学生の娘が、「えだまめ」でお世話になっています。アルプス福祉会さんに、なにか恩返しをしたいという気持ちと、養護学校を卒業された皆さんが、どのように日中を過ごされているの

か学ばせていただきたいという思いで、ねくすとさんにボランティアとして通わせていただいています。初めてねくすとさんに行った時は、なかまの皆さん一人一人に合ったお仕事や道具があり、皆さんが集中してお仕事をされていて、「本当にここは生活介護なの？」と驚きました。今は月曜日の午前中、なかまの皆さんが麦ストローを作るお手伝いなどをさせていただいています。朝、ねくすとさんに行くと笑顔で迎えてくれる皆さんに元気をもらいます。そして、熱心にお仕事をされているなかまの皆さんと過ごして、「私も今週頑張ろう！」と

思います。ねくすとさんでの時間は、私にとってエネルギーチャージの時間になっています。



なかまと一緒に麦ストローづくり

JA 松本ハイランド直売所「きろろ」



波田地域の直売所として人気の「きろろ」

松本市波田にある JA 松本ハイランドの直売所「きろろ」は第2コムハウスのゆいのシフォンケーキを取り扱ってくださっています。シフォンケーキをつくったけれど、なかなか販売先が見つからない中、きろろの当時の店長さんに快諾していただいたのがきっかけで、

以来5年以上のお付き合いをさせていただいています。今回、現在の店長の北澤さんにお話を伺いました。「きろろは地域の皆さんが生産している野菜などを取り扱っていますが、同じ地域の第2コムハウスの皆さんの活動を紹介して、地域の皆さんに情報を発信できればいいなと思っています。シフォンケーキを取り扱っているよ、と口コミで知り合いの方などが来店して下さっていますよ。」とお話してくださいました。また、シフォンケーキの納品は、なかまの大切な活動の一つとなっています。車に乗ってドライブしながらきろろへ出向き、店内にケーキを置いた後は、季節の野菜やフルーツを見て「スイカの季節がきたね」「長いももたくさんあるね」など、季節を感じながら作業できるのも楽しみのひとつです。きろろには第2コムハウスのボカシ肥料も置いていただいていた、自然農法の農家さんからも好評をいただいています。皆様、ぜひきろろへお出かけください！



週2回納品しています



アルプス福祉会の「押し活」、しませんか？



アルプス福祉会は「障がいのある人もない人も、お互いに尊重しあい、協力して生きていく」地域をつくり続けて39年目を迎えます。そんな地域づくりをすすめるために、皆様からのご寄付を募集しています。私たちといっしょに地域づくりをすすめていきませんか。

アルプス福祉会ではさまざまな寄付の方法をご用意しております。

マンスリーサポーター
(毎月の寄付)

毎月 **500** 円
1,000 円
5,000 円

イヤーサポーター
(毎年の寄付)

毎年 **5,000** 円
10,000 円
50,000 円

いつでもサポーター
(不定期または随時の寄付)

従来通りの寄付
(個人・法人・団体)も
お受けしております。

いただいた寄付金は主に以下の
事業に使用させていただきます。

- 新事業の開設や既存施設の修繕
- 送迎車両の購入・修繕
- 地域との交流や学びの場づくり

●寄付金額にあわせた税金の控除が受けられます。 ●くわしくは下記までお問い合わせください。

SNS発信中

※下のQRコードをスマートフォンのカメラで読み込むとアクセスできます。



Instagram インスタグラム
Facebook フェイスブック
各事業所の日々の活動の様子を配信しています



note ノート
職員によるコラムなどを配信しています

社会福祉法人

アルプス福祉会

〒399-0021 長野県松本市寿豊丘 642-1

ホームページ

TEL (0263)85-4141

FAX(0263)31-3696

https://alpsfukushikai.jp

